

関東東山病害虫研究会報 第 69 集 (2022 年 12 月)
目 次

特別講演

SDGs 時代の病害虫管理 — 微生物利用による防除の再考 —……………後藤千枝 1

報 文
病 害 の 部

(畑作物・野菜の病害)

茨城県で発生した *Hyaloperonospora brassicae* によるミズナベと病 (新称)……………山内智史・吉田重信 9
長野県におけるレタス黒根病に対する感受性の品種間差異……………石山佳幸 13
サトイモ疫病発病圃場から得た塊茎が次作の伝染源となる可能性の検証……………中田菜々子・高橋真秀・鐘ヶ江良彦 16
各種殺菌剤のネギ黒腐菌核病防除効果とピラジフルミド水和剤の効果的な散布時期……………井上 浩・竹元 剛・佐古 勇・谷口美保 19
千葉県のナバナ圃場における根こぶ病菌のレース分布に及ぼす温度の影響……………久保周子・清水 健・河名利幸 27

(茶の病害)

チャ炭疽病に対する DMI 殺菌剤テブコナゾール水和剤およびフェンブコナゾール水和剤の作用期間……………小澤朗人 30

(果樹の病害)

福島県における梅雨期以降のニホンナシ‘幸水’果実の黒星病に対する感受性と重要防除時期……………藤田剛輝 36
茨城県のナシ炭疽病罹病葉から分離された *Colletotrichum gloeosporioides* 種複合体の種構成および QoI 剤に対する薬剤感受性……………井上麻里子・岡田 亮・宮本拓也・小河原孝司 38
神奈川県で分離されたカンキツかいよう病菌の炭水化物利用能による系統識別……………富村健太・二村友彬 41

(花卉・花木・樹木の病害)

Calonectria pauciramosa によるギンバイカ褐斑病 (新称)……………尾崎梨花・中島 賢・久保田将之・久保田まや・廣岡裕史 44

虫 害 の 部

(イネ・ムギの虫害)

茨城県におけるイネカメムシ成虫の薬剤感受性……………八塚 拓・平江雅宏・菌部 彰・小林則夫 48

(畑作物・野菜の虫害)

赤黒ネットによるタバココナジラミ侵入抑制効果……………大矢武志・光永貴之・阿部弘文・廣橋寿祥・植草秀敏 52
群馬県のトマト栽培におけるタバコカスミカメを用いたコナジラミ類の防除効果について……………渡邊 香・矢野古都音・原澤典子・池田健太郎・櫛川 聡 56
東京都・本土地域野外および母島 (小笠原諸島) におけるタバコカスミカメの分布記録……………大林隆司 63
明治大学生田キャンパスの露地圃場で栽培したニガウリにおけるヒメハナカメムシ類の発生推移……………井手雅和・白川純蓮・糸山 享 67
ハクサイダニに対する有効な殺虫剤の選抜方法……………横山 薫・藍澤 亨 71
群馬県の未成熟トウモロコシにおけるナミハダニの薬剤感受性および寄主への適性に関する知見……………横山 薫・藍澤 亨 76
茨城県のネギほ場から採集されたネギハモグリバエ別系統に対する各種薬剤の殺虫効果および現地ほ場における防除効果の検討……………佐藤信輔・野村美智子・札 周平・小河原孝司 80
ネギ栽培におけるネギハモグリバエ B 系統の効果的な粒剤処理時期と各種粒剤の効果の検討……………札 周平・佐藤信輔・林 可奈子・小河原孝司 85

(研究手法)

CAPS マーカーによるクビアカツヤカミキリと他種カミキリムシの識別……………春山直人・栗原 隆 92

第 68 回研究発表会講演要旨

病 害 の 部

神奈川県におけるキュウリうどんこ病菌の薬剤感受性……………三角達也・藤田直哉・小塚絵美子・松本絵里奈・井戸本芽巳・内田景子・井村喜之・北宜 裕 98
茨城県におけるナシ炭疽病菌の種構成および QoI 剤に対する薬剤感受性……………井上麻里子・岡田 亮・宮本拓也・小河原孝司 98
福島県における梅雨期以降のニホンナシ‘幸水’果実の黒星病に対する感受性と重要防除時期……………藤田剛輝 98
キャベツ根こぶ病に対する神奈川県版ヘソディムマニュアルの作成……………島田涼子・岡本昌広・山崎 聡・田中 暢・井上 弦・上山紀代美・折原紀子 98

| | | |
|--|--------------------------|-----|
| 根こぶ病菌グループ 2 及び 4 のナバナ根こぶ病発病に影響を及ぼす諸要因 | 久保周子・清水 健・河名利幸 | 99 |
| アブラナ科野菜黒斑細菌病菌検出用培地の開発 | 井上康宏 | 99 |
| 高冷地におけるトルコギキョウ立枯病の特徴と品種の感受性差異 | 藤永真史・佐藤憲二郎 | 99 |
| 神奈川県内に自生するマメグンバイナズナに発生した斑点病（仮称） | 矢崎裕真・横田秀海・井村喜之・藤田佳克・北 宜裕 | 99 |
| <i>Neopseudocercospora capsellae</i> によるイヌナズナ白斑病（新称） | 横田秀海・矢崎裕真・井村喜之・藤田佳克・北 宜裕 | 100 |
| ダゾメット粉粒剤及び各種殺菌剤によりネギ黒腐菌核病の防除を行った圃場における次作での発病 | 中田菜々子・鐘ヶ江良彦・大谷 徹 | 100 |
| 静岡県で分離されたネギ黒腐菌核病菌における薬剤感受性の調査および評価 | 寺田彩華・高橋冬実・伊代住浩幸 | 100 |
| 神奈川県におけるネギ黒腐菌核病発病リスク低減のための管理手法の検討 | 岡本昌広・島田涼子・折原紀子 | 100 |
| 群馬県の秋冬ネギにおけるピラジフルミド水和剤セルトレイ灌注による黒腐菌核病の防除効果 | 池田健太郎・新井美優・星野啓佑 | 101 |
| トマトフザリウム株腐病防除技術の確立について | 久保晶子・八板 理 | 101 |
| 馬ふん堆肥の施用の有無と土壤消毒の実施時期が春夏どりニンジンの根部しみ症の発生に及ぼす影響 | 青木 由・高橋真秀・大谷 徹 | 101 |
| 輪作によるハクサイ黄化病の発病抑制 | 星野啓佑・小暮恵太・新井美優・池田健太郎 | 102 |

虫 害 の 部

| | | |
|---|--|-----|
| 青緑色粘着トラップの大量設置によるメロンのミナミキイロアザミウマ防除 | 土井 誠・長谷部 昇・吉崎涼花・宮地桃子・斉藤千温 | 102 |
| 温室メロン苗の蒸熱処理によるミナミキイロアザミウマ防除効果 | 吉崎涼花・土井 誠・斉藤千温 | 102 |
| 長野県の夏秋どりイチゴに発生するヒラズハナアザミウマに対する各種薬剤の効果 | 岩田直樹・清澤靖仁 | 103 |
| 未成熟トウモロコシに発生したトウモロコシアザミウマ（仮称）(<i>Frankliniella williamsi</i> Hood) | 渡邊正明・野村 研・鈴木 誠 | 103 |
| タバコカスミカメが捕食したタバココナジラミの蛍光プライマーを用いた高感度検出 | 勝野智也・村上理都子・櫻井民人・杜 建明・日本典秀・窪田直也・有本 誠 | 103 |
| 抑制トマト栽培における天敵タバコカスミカメを利用したコナジラミ類の防除法の検討 | 加藤直樹・窪田直也・手塚俊行・小原慎司・ワリデヴィット・小河原孝司 | 103 |
| タバココナジラミ成虫の定位、交尾、産卵行動に対する還元澱粉糖化物液剤の阻害効果 | 河津 圭 | 104 |
| トマトのタバココナジラミに対する赤ネットおよび紫外線反射シートの防除効果 | 飯塚 亮 | 104 |
| 加振して育苗したトマト苗に対してタバココナジラミは密度抑制効果を示す | 大矢武志・浜田泰子・小野寺隆一・高梨琢磨・小池卓二 | 104 |
| 神奈川県におけるトマト抑制栽培の総合防除体系の検討 | 大谷友洋・大矢武志 | 105 |
| 低温下における線虫抑制エンバクへのサツマイモネコブセンチュウ侵入性 | 上杉謙太 | 105 |
| ハクサイダニに対する各種検定方法および採取地域の異なる個体群における薬剤感受性の比較 | 横山 薫・藍澤 亨 | 105 |
| ニラのハウス栽培における被覆またはハウスサイド密閉処理によるネギネクロバネキノコバエの防除効果 | 星野航佑・横山 薫・池田健太郎 | 105 |
| トラップを用いたオリーブアナアキゾウムシの捕獲方法の検討 | 川田祐輔・中島 修・渡辺 茂 | 106 |
| 千葉県版ニホンナシ害虫 IPM 防除体系の紹介 | 清水 健 | 106 |
| 神奈川県でのナシ栽培におけるミヤコカブリダニ製剤の防除効果の検証 | 野村 研・鈴木 誠 | 106 |
| ナタネ粕によるクワシロカイガラムシの抑制効果 | 小俣良介 | 107 |
| イネカメムシに対する有効薬剤 | 八塚 拓・平江雅宏・菌部 彰・小林則夫 | 107 |
| 茨城県南地域の水田におけるイネカメムシの発生生態 | 平江雅宏・石島 力・石崎摩美 | 107 |
| 栃木県内の麦類ほ場はアブラムシ類の土着天敵供給源として機能し得るか | 春山直人 | 107 |
| 昆虫病原微生物の培地上における微生物殺菌剤成分菌との相互作用について | 村上理都子・窪田昌春・渡部賢司・須賀有子・光永貴之・石崎摩美・山内智史・勝野智也 | 108 |

そ の 他

| | |
|-------------------------------|-----|
| 関東東山地区に新たに発生が確認された病害虫（2021年度） | 109 |
| 本会記事 | 112 |
| 英文目次（CONTENTS） | 114 |
| 関東東山病害虫研究会報投稿規定，執筆要領 | 116 |
| 関東東山病害虫研究会賛助会員 | 123 |